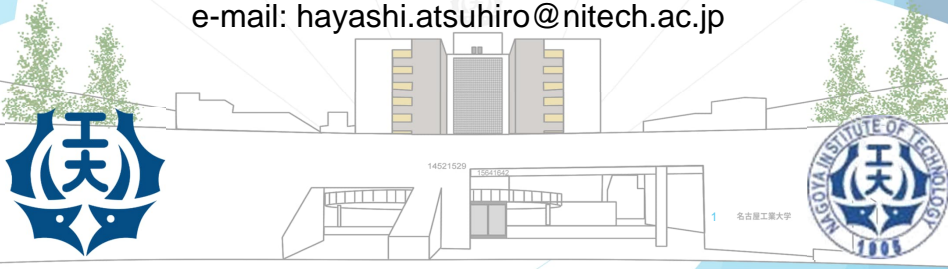


## 高校と大学の接続に関して思うこと ～あるアドミッションオフィス教員の独り言～

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻  
& アドミッションオフィス)  
e-mail: hayashi.atsumi@nitech.ac.jp



## 【概要】

- ◆ 大学のアドミッション部門は高等学校と大学の接続に関する業務を担っており、代表的なものとしては大学進学に関する情報提供が挙げられる。他にも入試に関する研究や評価、設計・支援やIR (Institutional Research)等が範疇に入る大学もある。これらの業務をこなすには自大学だけではなく広く日本の高等教育に起こっている状況を把握しておくことは勿論のこと、高等学校で行われている諸活動や抱えておられる課題等に敏感になっておく必要がある。アドミッションの諸活動に関わるようになって以来、高等学校と大学の接続はどうあるべきなのかを考えるようになった。
- ◆ 本講演では、アドミッションオフィス教員として日頃感じている事項をいくつか紹介し、高等学校現場におられる皆様のご意見もお聞きかせいただきながら、この課題を一緒に考えてみたいと思う。
- ◆ 日本の将来を担う若者の育成を担っている者同士として、今回の講演が多少なりとも考える端緒になれば幸いである。

2

## 【講演内容(案)】

0. 経緯
1. 自己紹介
2. 名古屋工業大学の概要
3. 私の考え
4. 私が感じる高等学校教育の現場
5. 進路指導
6. オープンキャンパスというイベント
7. 「年内入試」の是非
8. 高等学校教員の養成
9. 高等学校教員の主張のユレ
10. 大学という教育機関の意義
11. 調査書の大学入試での取り扱い
12. 大学の悩み
13. 高校生・大学生の気質
14. まとめに代えて
81. 蛇足

3

## 当日の提示資料について

- ◆ 今回の研究会参加に関し、いくつかの事項について講演させていただこうと考えております。しかし、先生方のご興味・関心に合うかも判りませんし、ページ数も増えそうですので、資源節約の観点から印刷したものを会場で配付することは控え、当日の提示資料や引用元URLを以下URLに掲載しておくことにしました。
- ◆ お手数ですが、必要に応じてアクセスしていただき、提示資料をダウンロード後印刷する等してお使いいただければと思います。



<http://stat.web.nitech.ac.jp/hai fu/#Takamatsu2410>

【注:すべて半角文字です】

4

## お約束

- ◆ 名古屋工業大学の いち研究者(教員)  
& アドミッションオフィス長
- ◆ 大学やオフィスを代表しての  
コメントや公式見解を言える立場にはない。
- ◆ 研究者としての意見を述べることは可能。
- ◆ 私の拙い偏狭な経験を通して考えたこと。
- ◆ 誤認識による間違った発言や  
礼を失した発言があるかもしれない。  
==> 優しくご指摘いただければ幸い。
- ◆ 「独り言」

5

## 0. 経緯

- ◆ 山本達也先生からのご依頼(7月下旬)
- ◆ 高松高等予備校 エグゼクティブ ディレクター
- ◆ 2008年入研協 設置形態別意見交換  
国立大学テーマ指定討論会の登壇者: 16年前
  - 全国大学入学者選抜研究連絡協議会、<https://www.dnc.ac.jp/research/nyukenkyou/>
  - 「秋季(9月)入学と秋季入学向け入試について」
  - 岡山県立瀬戸高等学校 進路指導担当教諭(当時)
    - 「高校側から見た秋季入学」
  - ※東大/浜田総長が「秋入学」を提言したのは 2011年7月
- ◆ その後、先生らが立ち上げた勉強会に  
参加させていただいてきた。
  - 日本中等教育ネットワーク、毎年3月下旬、@岡山

6

## 1. 自己紹介(専門)

- ◆ (天文学)
- ◆ (工学(機械系))
- ◆ 統計学: 今で言うデータサイエンス
  - ◆ データに内在する構造を見つける、探索する
  - ◆ 諸科学の支援: 医学、工学、農学、心理学、経済学、...
- ◆ 教育工学:
  - ◆ コンサルテーションシステム、学習診断
- ◆ 高等教育論:
  - ◆ 共通試験のあり方、入試・高大接続のあり方、  
“良い”選抜とは? どうやって評価する?
- ◆ 論理的記述力(国語学)

7

## 1. 自己紹介

- ◆ ここまでの道のり(高大接続関連)
  - ◆ 1981年から統計学(今で言うデータサイエンス): 43年間
  - ◆ 1996年から大学入試関係を本格化: 28年間
  - ◆ 2002年頃から高等教育論: 22年間
  - ◆ 2009年からアドミッションセンター教員: 15年間
  - ◆ 2010年から某SSH運営指導委員: 14年間
  - ◆ 2011年に某高等学校の外部評価委員: 1年間のみ
  - ◆ 2018年から共通試験の作題委員: 3年間
- ◆ 高等学校生徒・教員対象講演も程々に

8

# 1. 自己紹介

- ◆ 共通第1次学力試験 1期生(1979) & 2期生(1980)
  - ◆ 本来は2期生だったはずなのだが(1978年開始予定)
  - ◆ 共通試験: 46回実施(共通第1次, センター試験, 共通テスト)
    - 現在の現役教職員の多く: 共通試験を経験・見聞き
    - 便利なこと: 共通試験経験者かどうかで年齢の上下が判る
- ◆ 「共通1次世代」 <=== 無意味なレッテル貼り
  - ◆ ゆとり世代
  - ◆ 新人類
  - ◆ 就職氷河期世代
  - ◆ Z世代
  - ◆ .....

# ～学科説明～

4年制

## 高度工学教育課程

- 生命・応用化学科
- 物理工学科
- 電気・機械工学科
- 情報工学科
- 社会工学科

建築・デザイン分野  
環境都市分野  
経営システム分野

6年制

## 創造工学教育課程

- 材料・エネルギー
- 情報・社会

5年制

## 基幹工学教育課程 (夜間主)

- 電気・機械工学コース
- 環境都市工学コース

(2022年度から)  
(第二部からの改組)

工学の多くの分野を網羅

# 歴史

1905年(M38)3月 官立名古屋高等工業学校  
1929年(S 4)4月 工業教員養成所附設  
1944年(S19)4月 名古屋工業専門学校

設立年 大学名  
1881年 東京職工学校(後)  
1905年 官立名古屋高等工業学校  
1907年 私立明治専門学校  
1939年 室蘭高等工業学校  
1960年 北見工業短期大学

設立年 大学名  
1877年 東京大学  
1897年 京都帝国大学  
1907年 東北帝国大学  
1911年 九州帝国大学  
1918年 北海道帝国大学  
1931年 大阪帝国大学  
1939年 名古屋帝国大学

## 入学定員(工学系学部)

年次	新制	短大	工科大学	大	大	国
1949年(S24)5月	東京工業大学	1028名	東京大学	1000名前後		
1951年(S26)4月	名古屋工業大学	930名	京都大学	955名		
1959年(S34)4月	九州工業大学	941名	東北大学	810名		
1961年(S36)5月	室蘭工業大学	600名	九州大学	804名		
1964年(S39)4月	北見工業大学	410名	北海道大学	670名		
1985年(S60)4月	東京農工大学(工)	521名	大阪大学	1255名(工&基幹)		
2004年(H16)4月	電気通信大学	690名	名古屋大学	815名(工&情報)		
	京都工芸繊維大学	583名				

# 2. 名古屋工業大学の概要

- ・ 明治38年に「官立名古屋高等工業学校」として創設され約120年の歴史をもつ工学部。
- ・ 国立大学工学部の中でも、**屈指の規模を有する工科系単科大学。**
- ・ 約8万人以上の卒業生が、国内外の研究機関、企業、公的機関等社会で活躍している。
- ・ 近年の女子学生の入学者比率が約16.7%と高い。
- ・ 名古屋市内のほぼ中心地に位置しており、公共交通機関も利用し易く、また緑豊かな鶴舞公園に隣接した恵まれた環境。
- ・ 就職率が99.2%と高い。→ 大学・大学院案内 P38-39
- ・ 学部 4043名, 大学院 1685名, 教職員 528名, 総計 6256名 (24年5月)

## 入試実施実績(2024年3月)

入試区分	入学定員	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
前期日程 <b>一般選抜</b>	930	487	1628	1554	507	500	3.1
後期日程		296	2360	1201	372	298	3.2
学校推薦型選抜(Ⅰ)		72	215	215	78	78	2.8
学校推薦型選抜(Ⅱ)		65	150	150	69	69	2.2
総合型選抜		10	33	33	13	13	2.5
私費留学生		若干名	55	47	19	13	
国費・政費留学生	若干名	2	2	2	2		

930 4443 3202 1060 973 3.0

全てインターネット出願に移行



## 一般選抜の特徴

- ◆ 入学定員の 52%(前期, 487人)、32%(後期, 296人)
- ◆ 一言で言うと「個別学力試験重視」:「挽回可」「逆転可」とも
- ◆ 総合点の計算方法
  - ◆ 大学入学共通テストの得点(950点)を [教科情報は50点]
    - 前期日程: 1/2弱に圧縮(450点)
    - 後期日程: 1/3弱に圧縮(300点)
  - ◆ 個別学力試験:1000点: 前期日程・後期日程とも
    - 数学(400点)、理科(物理 or 化学)(400点)、英語(200点)
- ◆ 個別学力試験のミスは影響が大きい
  - ◆ 特に数学と理科は手堅く得点したい

## 3. 私の考え

- ◆ 「大学が元気であるためには  
高等学校が元気でなければならない」
  - ◆ 高等学校の先生も生徒も
  - ◆ 大学の修学には高校の勉強が必須 ==> 本学のAP
- ◆ 高等学校を応援したい。有意義な高校生活を。

【大学・大学院案内2025: P4~5】

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人、特に英語の基礎学力と表現力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人々の幸福に貢献する意欲をもつ人
4. 他者と意見を交わすことのできるコミュニケーション力をもつ人 (創造工学教育課程)

## 4. 私が感じる高等学校教育の現場

- ◆ 全進学時代(高等学校進学率 98.7%(R5))
  - ◆ 大学・短期大学進学率は61.1%(R5)
- ◆ 生徒の多様化、教育内容の多様化
- ◆ 週5日制
- ◆ 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間  
<===> 総合型・学校推薦型選抜との兼ね合い
- ◆ 国語: 文学と論理の塩梅
- ◆ 数学: 統計単元の教育
- ◆ 教科情報の取り扱い(2003年から選択必修):
  - ◆ 教員配置、教育内容、PC環境、入試対応、.....

## 4. 私が感じる高等学校教育の現場 (続き)

- ◆ 教育内容の中学からの持ち上がり
- ◆ アクティブ・ラーニングの導入
- ◆ デジタル教科書、GIGAスクール構想
- ◆ 部活動支援
- ◆ 進路の多様化、知識の多様化
  - ◆ 偏っている場合もあり
- ◆ キャリア教育、金融教育、SDGs、選挙権、.....
- ◆ 『高等学校教育は盛り過ぎ、過積載』
  - ◆ 期待が大きい? 押し潰されないようにね!

17

## 5. 進路指導: 担当教科の教育と双璧?

- ◆ 入試形態の多様化: 一般・推薦・AOの比率
- ◆ 18歳の視野から見える世界の限界
  - ◆ 揺れ動く・定まらない指向・嗜好
- ◆ 学部内容(名称)の多様化
  - ◆ 多種多様な「学部名称」。専門職大学も。
  - ◆ 学位名称: 29種類からの派生・拡大 ==> 次ページ
- ◆ 高等学校教員の役割・振舞いの重要性
  - ◆ 常時寄り添っている教員 <====> 一過性の講演
  - ◆ 大まかで良いので把握しておけないものか?

18

## 学位名称≒学部名称

- ◆ 1956年から1990年: 29種類
  - ◆ 文学士・教育学士・神学士・社会学士・教養学士・学芸学士・社会科学士・法学士・政治学士・経済学士・商学士・経営学士
  - ◆ 理学士・医学士・歯学士・薬学士・看護学士・保健衛生学士・鍼灸学士・栄養学士・工学士・芸術工学士・商船学士・農学士・獣医学士・水産学士・家政学士・芸術学士・体育学士
- ◆ 1991年以降: 自由化
  - ◆ 250種類(94年)、580種類(05年)、700種類(12年)
  - ◆ 「学位に付記する専攻分野の名称の多様化について」
    - ◆ <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140917.pdf>
  - ◆ 「学位に付記する専攻分野の名称(令和4年度分)」
    - ◆ <https://www.niad.ac.jp/publication/gakui/meishou.html>

19

## 6. オープンキャンパスというイベント

- ◆ 大学見学
- ◆ 何を目的に?
  - ◆ 引率教員には理解しておいてほしい
  - ◆ 高等学校教育の一貫のはず
- ◆ そもそも大学は「オープン」です
  - ◆ <====> オープンスクールとの違い
- ◆ 職業と絡めた進路指導: 「指導のし易さ」?
  - ◆ 卒業生の発言:  
「卒業研究が直接仕事につながることはない」
- ◆ 大学は「考え方」を修得する場所: 後述

20

## 7. 「年内入試」の是非

- ◆ 高等学校教育にプラスに寄与するのか?
- ◆ 共通試験の早期化には猛烈に反対だったはず
  - ◆ 「高校生を3年間預かっている」、「高等学校文化の崩壊」: 校長会の反対声明(2000年代)
  - ◆ 専門学校におけるAO入試等の開始時期について(お願い)(2009/11)
    - ◆ [http://www.zen-koh-choh.jp/iken/2009/091116/senmon\\_ao.pdf](http://www.zen-koh-choh.jp/iken/2009/091116/senmon_ao.pdf)
- ◆ 現在は何故受け入れておられるのか?
  - ◆ 『「年内入試」で学力試験実施に批判と歓迎の声... 「困り込みだ」「早めに合格できる』』
    - ◆ 読売新聞 2024/10/05 15:00
      - ◆ <https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20241005-OYT1T50091/>
  - ◆ 「高等学校と大学の利害が一致」。ホント?

21

## 8. 高等学校教員の養成

- ◆ 優秀な教員の確保方策は?
- ◆ 教員の多様性担保は?
  - ◆ グローバルが叫ばれている時代の教員像は?
  - ◆ 教員県外卒や人事交流があっても良いのでは?
- ◆ 教員採用の早期化: 学部3年生から応募可
  - ◆ 解決策・緩和策になれば良いが。
  - ◆ 入試の早期化に反対できなくなったことを自覚しておられるのか?
- ◆ 「採用した側の目利きの問題」ではないのか?
  - ◆ 採用した(or 合格させた)者の教育はその機関が負う

22

## 9. 高等学校教員の主張のユレ

- ◆ 一番手校所属、二番手校所属で教員の意見が異なる。
  - ◆ 転勤した場合の振る舞い。
- ◆ 高等教育側に居る者からすると誰を相手に議論をすれば良いのか?
  - ◆ 人間関係の構築を難しくしてはいないか?
- ◆ 「日本の将来」に寄与する方策は?
- ◆ 議論をする際、前提条件を合わせる必要がある

23

## 10. 大学という教育機関の意義

- ◆ 初等中等教育と高等教育の違い
  - ◆ 「教えてもらうのが生徒、自ら研究するのが学生」
- ◆ 就職予備校ではない ← 私見
  - ◆ 高等学校: 大学進学予備校ではない、でしょ?
- ◆ 修得するスキル
  - ◆ 「考え方」「出逢い・気付きの場」「視野を広げる期間」
  - ◆ 単なる技術ではない。職業訓練ではない。
- ◆ 入試: 入学後の修学に耐えるかを判断する試験
  - ◆ 入学式の式次第「入学許可」の意味するところ
  - ◆ 許可する理由は? 卒業を請け負う

24

## 大学での「学び」とは

高校と大学で  
全然違う!!

- ◆「大学とは?」何?? どんなイメージ??
  - ◆ 専門、自由、夜更かし、留学、趣味、バイト、飲酒、タバコ、一人暮らし、責任、スマホ、選挙、運転免許、サークル、迷子、恋愛、ゲーム、勉強
- ◆『今月から学生になったことを自覚せよ』(某学長の入学式での式辞)
- ◆ 外形的には
  - ◆ 生徒: 中学生、高校生
  - ◆ 生徒: 既知の事実を学ぶ人
  - ◆ 学生: 大学生、大学院生
  - ◆ 学生: 未知の予測を  
実証する人
- ◆ 「教えてもらうのが生徒、  
自ら研究するのが学生」
- ◆ 答えの定まらない課題を自ら発見して取り組む

25

## 大学での「学び」とは?

- ◆ 『答えの定まらない課題を自ら発見して取り組む』
  - ◆ 未知問題への挑戦
  - ◆ 課題への「考え方」「取り組み方」を学ぶところ=大学
- ◆ そのためには
  - ◆ 自分で主体的に切り拓く・調べて試してみる
  - ◆ 「考える」ことの重要性
  - ◆ 高校での学び方からの「モードチェンジ」
  - ◆ 待っていては何も起こらない
  - ◆ .....

26

## 大学での「学び」とは?

- ◆ 大学での「学び」の楽しみ方
  - ◆ (教員を含めて)誰にも正解が判らない課題に対して
  - ◆ 主体的に探求する=「研究」と呼ぶ
  - ◆ 他人と協調しながら: 仲間、教員、先輩・後輩、.....
    - 「意見交換の技術」の必要性=言語運用能力
  - ◆ 「学び方」自身はそれぞれ開発する必要がある
  - ◆ 「してもらうところ(受け身)」ではなく「しに行くところ(自発)」
  - ◆ 自分で行動を起こさないと何も始まらない
- ◆ これらの活動の基礎に高校教育が位置する
  - ◆ 副題:『~有意義な高校生活の先にあるもの~』

27

## 11. 調査書の大学入試での取り扱い

- ◆ 「調査書の有効な利用」が謳われて久しい
  - ◆ 「令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」
    - [https://www.mext.go.jp/content/20210729-mxt\\_daigakuc02-000005144\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210729-mxt_daigakuc02-000005144_3.pdf)
  - ◆ 高等学校の基準のばらつき、評価方法、.....
  - ◆ 「現実問題としては難しい」との感触が大勢
- ◆ 追跡調査に関するセッションでの話題
  - ◆ 入研協 全体会1「大学入学者に対する追跡調査研究の現状と展望」on 05/23/2024、2h
    - 「大学入試研究の動向 42号」に掲載予定
      - <https://www.dnc.ac.jp/research/nyukenkyou/kankoubutsu/>
  - ◆ 「調査書の利用方法」を協議すべきではとの意見
  - ◆ 妙案はないものか?

28

## 11. 調査書の大学入試での取り扱い

- ◆ 高等学校必修科目未履修問題
  - ◆ 2006年10月発覚: 世界史、公民科目、情報
  - ◆ 「調査書の信頼性」に疑問符が付いた
  - ◆ 経緯・再発防止方策: 早めに総括をすべき

29

## 12. 大学の悩み

- ◆ 作題者の後継者育成: 薄氷上の運営
  - ◆ 教養部解体(1990年代中頃)
  - ◆ 共通試験の浸透(46年間)
  - ◆ 教員評価の弊害: 教育、研究、社会貢献
- ◆ アドミッション教員の養成
  - ◆ 多様な職務、大学ごとに異なっている
    - ◆ 「アドミッション・オフィスの機能と役割 - 多面的・総合的評価を実現するために -」
      - <https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/no18/03.pdf>
  - ◆ 育成課程がない。多くは「二足のわらじ」。
  - ◆ データを学生に見せられない
    - [例] 内申評定、試験成績、学内成績、.....
  - ◆ 学外と共有しづらい: 一部は入研協で情報交換

30

## 12. 大学の悩み

- ◆ 「入試研究の面白さ」を伝えきれていない。
- ◆ 試験実施
  - ◆ 試験監督要領の複雑化・肥大化、全国的な統一措置対応、別室受験の増加、.....
    - [例] 説明会+リスニング試験予行演習: 4時間
  - ◆ 成績処理システムの変更
    - インターネット出願
    - 新たな教科の追加への対応等

31

## 入試研究の例

- ◆ 作題者に対して統計情報を提供(評価資料)
  - ◆ 平均、標準偏差
  - ◆ 設問解答率分析図
  - ◆ 得点分布
  - ◆ 試験問題DB、教科書DB
  - ◆ 各科目受験者群別平均点(連関表)
- ◆ 入試の振る舞いの把握
  - ◆ 合否入替り率
  - ◆ 入試問題の改善、...
  - ◆ 追跡調査
- ◆ その他
  - ◆ 得点調整
    - 分位点差縮小法
    - 等化
  - ◆ 調査研究: 総合試験、高大連携、試験情報の整備、...
  - ◆ 研究開発: 評価方法、...
  - ◆ 調査・アンケート等

32



## 13. 高校生・大学生の気質

- ◆ 多様性が浸透していると想像していたが
    - ◆ 「同調圧力」、横並び
    - ◆ 内向き志向。地元志向。
  - ◆ COVID-19の終焉で変化が見られる?
  - ◆ 世界に挑戦する生徒の育成?
- 
- ◆ 大学1年生同士の春の会話
    - ◆ 入試問題の出来/不出来 <=== 成長の過程
  - ◆ 私学では高校生の気質が大学卒業まで維持されているとの感想: 入研協 全体会1

33

## 14. まとめに代えて

- ◆ 高等学校と大学の関係:  
お互いに相手を知り知恵を出し合う。
- ◆ 生徒・学生には、  
「常に考えることの習慣」  
「自分で考えることの面白さ」を伝えたい。
  - ◆ その一端が総合型・学校推薦型選抜に貢献するのでは?
- ◆ 生徒に寄り添っている高校教員の責務は重要
  - ◆ 生徒と向き合う時間を多くする方策を考えねば。
- ◆ 「教養」の重要性: 私も習得方法が判らずにいる

34

## 14. まとめに代えて

- ◆ 教員は「夢を持ってもらう仕事」
- ◆ 学校(高等学校、大学):
  - ◆ 「出逢いの交差点」
  - ◆ 「考えるネタ」を降り注ぎ続ける場
- ◆ 高等学校と大学関係者が手を取り合って  
若者の育成を支援する環境を。
- ◆ 私の話題は時代遅れなのかもしれない。  
認識間違いがあるかもしれない。  
理想論に過ぎないのかもしれない。

35

## 81. 蛇足(現時点では非科学的な話題)

- ◆ 「人の魅力」って何?
  - ◆ 意外と短時間で伝わるものなのか?
  - ◆ 識別力: 年齢と共に増すものなのか?
  - ◆ 判断能力を入試に活用できるものなのか?
- ◆ 入試: 不合格者が納得する理由付け
  - ◆ 面接結果だけで理解が得られるのだろうか?
- ◆ 「覚醒時期」「発火時点」は個々人によって異なる
  - ◆ 人は変わる。人は変われる。何が動機付け?
  - ◆ 出身大学名・学歴の無力さ。「良い大学」って何?
  - ◆ 少なくとも18歳には理解していただけないだろうなあ。

36

# 81. 蛇足(現時点では非科学的な話題)

- ◆ 論理的記述力: 「大学入学者選抜改革推進委託事業」  
文部科学省 5グループ (2016-18)
- ◆ 大学1年生がレポートを書けなくても当たり前。
  - 気付いた時に着手すれば十分
- ◆ どうやって育成すれば良いのか?
- ◆ 練習あるのみ? 添削も有効?
- ◆ 「読むこと(読書)」の重要性
- ◆ どの時期に何の先生がどうやって育成するのが理想的なのか? ==> 卒論が担っている?
- ◆ 何かご助言はございませんか?

# 【講演内容(案)】

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 0. 経緯               | 10. 大学という教育機関の意義   |
| 1. 自己紹介             | 11. 調査書の大学入試での取り扱い |
| 2. 名古屋工業大学の概要       | 12. 大学の悩み          |
| 3. 私の考え             | 13. 高校生・大学生の気質     |
| 4. 私が感じる高等学校教育の現場   | 14. まとめに代えて        |
| 5. 進路指導             | 81. 蛇足             |
| 6. オープンキャンパスというイベント |                    |
| 7. 「年内入試」の是非        |                    |
| 8. 高等学校教員の養成        |                    |
| 9. 高等学校教員の主張のユレ     |                    |

<http://stat.web.nitech.ac.jp/hai fu/#Takamatsu2410>

- ◆ 雑駁な話題の羅列で恐縮です。
- ◆ 考える端緒になれば幸いです。

